

ドクターからの健康アドバイス

放射線について 正しい理解をしましょう。



愛染橋病院
放射線科

おお やま よし まさ
大 山 嘉 将

るかと思えます。では、どの程度被曝すれば影響が出るのでしょうか。

人間の体に影響がではじめる放射線被曝の量としては、人体が一度に全身に1000ミリシーベルトを超える放射線を受けた場合と言われていています。胸部レントゲンは約0.2ミリシーベルトですから5000回以上の検査、胃のバリウム検査では、2.0ミリシーベルトですから50回以上の検査をしない限り1000ミリシーベルトを超えることはありません。また、これらはあくまで一度に全身に浴びた場合（急性被曝）の仮定であり、同じ放射線を浴びるにしても、少量の放射線を長時間にわたって受けた場合と、強い放射線を一度に浴びた場合とは、影響はかなり違います。前者の方がはるかに放射線障害は少なくなります。これは細胞や組織の持つ損傷回復力が放射線による障害の発生を上回って働いたためです。そのために年間約2.4ミリシーベルトという自然放射線による被曝で、障害の発生がないのです。

放射線検査は診察ではわからない多くの情報を得ることができます。必要な放射線検査は今後もきちんとお受けになることをお勧めします。

昨今発生した原発事故の影響もあり被曝が不安だから放射線検査をしないとと言われる方もおられます。しかし、われわれは常に避けようのない被曝にさらされていることはご存知でしょうか。放射線検査を受ける以外にも、地球上に存在する天然の放射性物質や宇宙から降り注いでいる宇宙線から常に放射線を浴びています。

これらから1年間に被曝する線量は年間約2.4ミリシーベルトとされています。

・胸部レントゲン：およそ0.2ミリシーベルト

・腹部レントゲン：およそ0.9ミリシーベルト

この数値から胸部・腹部のレントゲン写真の線量の少なさはご理解していただけ

